
あなたに教えてもらったこと

流昂貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたに教えてもらったこと

【Nコード】

N6139D

【作者名】

流昂貴

【あらすじ】

変な病気にかかってしまっている女の子と、日記の中でしか知らない――覚えていない、男の子のお話。結構真面目に書きました。

(前書き)

なんか中途半端な感じですね。

あなたに会えたこと、私は覚えていたい。
忘れたくない。

どうして私は忘れてしまうんだろう。
覚えたいことも忘れたくないことも全部、自分の意思に関係なく忘れてしまう。

どうしてこんな身体に生まれてしまったんだろう。

あなたに教えてもらったこと

「あかりーっ！」

誰かを呼んでいる人の、声。
女の子の、多分私と同じくらいの。

振り向くと、彼女は私の顔を見て笑いかけた。

——誰だっけ。

思い出せない。
でも彼女は私を知っている。

彼女は私に駆け寄って、息を切らしながらこちらを見た。

「どうしたの？あ、もしかしてわからない？私は、雪奈。あかり・
・——あなたの友達だよ！」
「とも、だち・・・・・？」

それでも私にはわからない。
自分の名前さえも、思い出せない。

私の名前は『あかり』っていうの？
そしてあなたはその『あかり』の友達なの？

——わからない、覚えてない。

「まあ、仕方ないんだけどね」

そう言って笑う彼女の話によれば、私は一日経つとその日あったことを忘れてしまう病気らしい。
名前もない、記憶を忘れる以外は至って健康、というそんな変な病気。

なんでそんな病気になったのかはわからない。
ただ、気付けばなっていた。

「あ、そうだ。あかりが毎日つけてる日記があるんだよ！明日の自分が困らないようにって」

「・・・日記・・・?」

その日記に書いてあったのは、私の覚えていない生活。

一枚一枚めくっていくと、ふと中に違う文字が混ざっていた。

めくる度に何度も何度も見かける、その私とは違う字。

どうやらそれは記憶がない中で私が出会った、ある男の子らしかった。

その男の子と、私はまるで交換日記のように日記で会話をしている。

――そして最後のページ。

彼で終わっているそれは、私への言葉だった。

『君はこれを読むとき、僕のことは覚えていないと思う。
それでもいい。』

ただ、一人だなんて思わないで。

君は一人じゃないよ。

家族も、友達も、いるから。

僕のことは忘れてもいいから、
これだけは覚えていて欲しい。

忘れてしまっても、何度もこの日記を読んで、
思い出して欲しい』

名前も、顔も、存在すら覚えていない。

なのに、涙が出た。

涙が出て、止まらなかった。

ありがとう。

きっと明日はまた忘れてしまうだろうけれど、
また明日もこうして
私はあなたを知る。

この日記を書く限り、私はあなたを忘れない。

——また、明日。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6139d/>

あなたに教えてもらったこと

2011年1月27日10時51分発行